

ドクターに聞きました

COPDについて

数年前から、駅やアパートの階段を上るとき息切れを感じていた。最近、平地でも息切れを感じるようになった。20歳頃より、1日20本ぐらいのタバコを吸っていて、時折、咳や痰（慢性気管支炎）も出ていた。昭和29年生まれで、65歳（樽状胸郭の痩せ男）となり、高齢者の仲間入りとなり、年齢的なことと考えたが、近くの『さかい内科呼吸器科医院』を受診した。院長は、5分ほど話を聞くと、COPD（慢性閉塞性肺疾患）と診断した。COPDとは何と聞くと、検査の後でまた説明すると言って、胸部X線と肺機能検査を行った。またじつとしても息苦しくなったり、喘ぐこともあると言ったら、血液ガスの検査を行なった。生まれて初めて鼠径部から血液を採られた。とても恐怖を感じたが、思いのほか痛くな

かった。胸部X線は、全体的に膨らみ、黒ずんでいて、心臓は小さく水滴のよな形をしていた。肺気腫がある（Cにて風船のように膨らんだ肺気腫像あり）と言われた。肺機能検査は、息はある程度吸えるが、上手く息が吐きだせない状態と言われた。確かに、意識的に口をすぼめて息を吐いていた。血液ガスの結果は、酸素の量が減り、二酸化炭素の量が少し多くなっている、近い将来在宅酸素療法の可能性があると言われた。鼻カニューレをして酸素ボンベを手押し車で移動している高齢者を思い出し、少し意気消沈した。COPDにはI〜IV期あって、そのII期（気流閉塞中程度）と言われた。禁煙することが一番大切だと言われた。45年間慣れ浸しんだタバコからの離脱は悲しい気持ちになったが、進行を止めるには、

禁煙しかないと言われ、すぐ実行することにした（しかし意思が弱く禁煙指導を仰ぐこととなり、「チャンピックス（禁煙治療薬）」の力を借りて、禁煙に成功した）。COPDとは、タバコ病とも呼ばれ、ヘビースモーカーに多い病気で、肺の生活習慣病なのである。治療薬の話の時、前立腺肥大症の治療の有無を尋ねられたが、頻尿ではあるが、エコーにて前立腺肥大の所見はないと言ったところ、まず「長時間作用性吸入抗コリン薬」を使おうとあって、吸入剤を渡してくれた。少し息切れは改善したが、万全ではないというときにさらに「長時間作用性吸入β2刺激薬」を加えた合剤を使用することになった。歩行時の息切れはかなり改善されたが、体動時、喘ぐことがあると説明すると、「吸入ステロイド」

を加えた、3種類の吸入剤が入った製剤を試してみるようになった。これで体動時の息切れがかなり改善された。院長はまた横文字のACOという診断をしてきた。これは、COPDと気管支喘息のオーバラップ病態で、高齢者にはかなり多いと聞かされた。またインフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン（来年は間に合えばコロナワクチン）と呼吸リハビリをするように言われた。



医療法人
さかい内科呼吸器科医院
坂井 二郎先生

略歴

医学博士
日本内科学会：認定内科医
認定総合内科専門医
日本呼吸器学会：専門医・指導医
日本気管支学会：認定指導医
日本医師会：認定産業医
認定健康スポーツ医
日本禁煙学会：認定指導医
日本体育協会：公認スポーツドクター

医療法人
さかい内科呼吸器科医院
北九州市若松区本町3丁目
4-10
TEL 093-751-2790

